

デントコーンの害虫 ネキリムシ

Oku

近年、温暖化の影響もあいまって、この地域でも積算気温が高くなってきており、デントコーン栽培が現実的になってきていると言われていたようです。そして購入飼料価格の上昇により、自給飼料としてのデントコーンサイレージ作付けの意義を感じてデントコーンを作り始める農場が増えてきています。そんな中、草地から転換した圃場では草地由来の害虫がコーン作付け初年度に問題になることが多いようです。今回はネキリムシの対策について教えてもらったことを紹介します。



● ネキリムシの被害

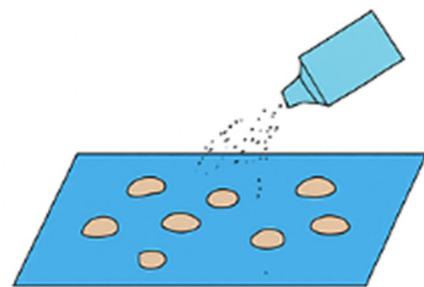
ネキリムシは多年草の根に寄生しており、草地後作のとうもろこし圃場では特に多発します。とうもろこしの2~3葉期に、地下の種子部やその上部を食害し、立ち枯れを引き起こします。被害発生後の救済策はほぼ無く、被害株の再播種を行っても熟度不足となり収穫量は期待できないため、事前対策が必須とのこと。

ネキリムシ被害は播種後 20~30 日頃に顕在化します。草地後作の場合、最低 3 年間はネキリムシ対策を継続することが望ましいようです。



● 対策方法

ネキリムシに有効な種子処理用農薬として右のような薬剤があるようです。使い方はまず種子をブルーシート上に広げ、クルーザー液剤をまんべんなく散布し、手で丁寧に混ぜ合わせます。手作業は作業負担が大きく、粉衣ムラも出やすいため、市販のミキサー（電動ミキサーやコンクリートミキサー）使用を推奨します。粉衣後は軽く乾燥させてから播種を行います。



● これからデントコーンを始めるにあたって

道東地域でデントコーン作付けが広がる中、作付けを成功するために、草地との管理の違いとして土壌 pH や肥培管理だけでなく、害虫や病害のリスクも多くあります。農場のコーン収穫目的にあった品種、収穫時期を選定し、より飼料の価値の高いコーンサイレージを作りましょう。

